

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 16 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2014

課題番号：23242030

研究課題名(和文)新しい言語教育観に基づいた複数の外国語教育で利用できる共通言語教育枠の総合研究

研究課題名(英文)Projet de recherche sur le cadre commun de l'enseignement de langues

研究代表者

西山 教行(NISHIYAMA, Noriyuki)

京都大学・人間・環境学研究科(研究院)・教授

研究者番号：30313498

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、各言語が共通に使えるシラバスや基盤的教材の開発をすること、外国語の使える学習者を増やすこと、学習者に言語使用を通して、東アジアとの、およびグローバルな交流を目指す視点を持たせることを目的として実施された。  
このための基礎資料として、2012年5月、10月に各地の大学において第2外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、ロシア語)の学習者2万名あまりを対象として、外国語学習の動機に関するアンケート調査を実施した。その調査から、個別言語の動機付け並びに言語を横断し、各言語学習の特色を他言語との比較における解明を、2013年、2014年の語学教育エキスポにおいて発表した。

研究成果の概要(英文)：This research aims to develop educational materials and curricula common languages, to increase learners who can use the foreign language, as well as to develop, through the practice of foreign languages, the views of the global exchange in East Asia.  
The investigation into the motivation of learning foreign language, German, French, Chinese, Spanish, Korean and Russian, with 20,000 students is realised in May and October 2012. The survey demonstrated the characteristics of motivation learning of foreign languages and the comparison between them.

研究分野：言語教育学

キーワード：CEFR 能力記述文 動機付け 複言語・複文化主義 教育評価 ポートフォリオ

1. 研究開始当初の背景

日本の外国語教育は岐路に立たされている。外国語教育で集中の進む英語は、「日本人育成のための行動計画」などにより、教育の具体的な成果を求められてくる傾向から、TOEIC 頼みの授業が一時盛んであった。しかし、これによって TOEIC のスコアを多少あげることではできても、英語の使える日本人の育成には程遠いことが認識されつつある。そのためか、多くの英語教育研究者が、『ヨーロッパ言語共通参照枠』(以降 CEFR) を基盤に英語力の指標を作成する研究に従事し始めた。しかし、その研究の多くは、勤務校の英語カリキュラムに関わるものであり、異なる学校間では、能力記述やレベルがまちまちで共通性はない。また、ほとんどの研究が能力指標の設定にとどまっており、CEFR の本質的な特徴である複言語・複文化主義について、またその実現に不可欠な部分的能力に関する研究はほとんど見られない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、英語、フランス語、ドイツ語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語、ロシア語そして日本語教育の研究者および実践者が一堂に結集して、学習に興味を持たせていない、また外国語の使える学習者を十分に養成していない日本の言語教育の大幅な改善を目指すことにある。具体的な改善目標は、①各言語が共通に使えるシラバスや基盤的教材の開発をすること、②外国語の使える学習者を増やすこと、③学習者に言語使用を通して、東アジアとの、およびグローバルな交流を目指す視点を持たせることなどである。

3. 研究の方法

外国語学習の動機に関するアンケート調査の分析を進め、それぞれの外国語学習の動機にはどのような特色があるのかを解明し、その分析に基づき、各言語が共通に使えるシラバスや基盤的教材の開発を進める。

4. 研究成果

①各言語が共通に使えるシラバスや基盤的教材の開発をすること  
 ②外国語の使える学習者を増やすこと  
 ③学習者に言語使用を通して、東アジアとの、およびグローバルな交流を目指す視点を持たせることなどである。

①に関して、その研究のために、中国語と韓国語を中心に研究されている『学習のめやす』が他の外国語に応用できるか検討した。

また基礎研究資料として、2012年5月、10月に全国各地の大学において第2外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、ロシア語)の学習者2万名あまりを対象として、外国語学習の動機に関するアンケート調査を実施した。これについては、個別言語の動機付け並びに言語を横断し、それぞれの言語学習の特色を他の言語との比較する分析を実施した。さらに動機付けに関する質的研究

の分析も実施し、2015年3月の言語教育エキスポにおいて発表した。

②に関しては、上記した全国調査には、外国語が使える学習者を増やすために中等教育に携わる外国語科の教員が自己省察をしながら成長するためのめやす作成の調査項目も含んでいる。

③に関しては、講演会、シンポジウム、ワークショップ、学会などへの参加などを通じて、問題意識を深め、課題を明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

NISHIYAMA Noriyuki (2011), Enjeux et perspectives pour la formation de la didactique des langues au Japon -projet inspire du CECR et son developpement, Revue japonaise de didactique du francais, vol. 6, n. 1, Etudes didactiques, 281-287

酒井志延 (2011), 英語教育の2つの課題と CEFR の文脈化, Media, English, and Communication, 1, 27-40

Mitsuru Ohki, Francoise Grauby (2011), L'impact des representations du francais sur la motivation : etude comparative entre le Japon et l'Australie, Actes du Iie congrs de la commission Asie-pacifique de la FIPF, 2, 63-71

酒井志延(2012)「補習型教育方法から成長型教育方法への転換についての考察」『リメディアル教育研究』第8巻第1号, 82-99

大木 充, 堀 晋也(2012), 「授業時間外自律学習のためのタイムマネジメントと不安」『e-Learning 教育研究』第7号, 1-10.

西山教行, 程 遠巍 (2013), 中華世界における『ヨーロッパ言語共通参照枠』の受容 ; 中国, 台湾の教育文化と「スタンダード」, Revue japonaise de didactique du francais, Etudes didactiques8-1, 32-48

細川英雄 (2013), 市民性形成をめざした言語教育へ, 英語教育 2 月号, 42-43

- 境 一三(2013), 生涯学習としてのドイツ語学習 – CEFR を参考にした制度設計に向けて, ドイツ語教育 18, 8-10
- 酒井志延(2013), おっ, グローバル化ですか, CUC view & vision 36, 43-48
- 長谷川由起子(2013), 日本の中等教育機関における英語以外の外国語教育の実情 – 「英語以外の外国語教育の実情調査」結果分析–, 九州産業大学国際文化学部紀要 55, 113-139
- 砂岡和子・古川 裕・王松(2013), 日本大学生漢語学習動機的調査研究, 第3期, 23-25
- 古川 裕(2013), 日本語と中国語における〈流動〉及び〈流動物〉の認知特徴と言語表現, 現代中国語研究第15期, 39-51
- 久村 研(2013), 英語教師の海外経験と異文化間教育への自信—全国調査分析結果から—, Language Teacher Education 言語教師教育, 第1巻第1号, 23-30
- 長谷川由起子(2013), 高等学校第二外国語必修化提言実現に伴う課題, 多言語・複言語研究 1, 34-52
- 境一三(2013), 『ヨーロッパ言語共同参照枠』(CEFR) は日本の外国語教育に何をもたらしたか? 複言語・多言語教育研究 1, 34-52
- [学会発表] (計 42 件)
- Sien Sakai (2011), Toward Contextualization the Rationales behind the CEFR, the Second International Symposium on European Languages in East Asia, 2011年11月05日, 台湾大学
- 酒井志延(2011), 英語教育の2つの課題とCEFR, 愛媛県高等学校研究会 (招待講演) 2011年12月21日 日松山南高校
- 長谷川由起子(2011), CEFRと日本の韓国語教育, 第53回朝鮮語教育研究会, 2012年03月31日, キャンパスプラザ京都
- 古川 裕(2011), 外国語教育連携の時代へ—中国語教育の現状と課題, 日本ロシア文学会2011年度総会プレシンポジウム (招待講演), 2011年10月07日, 慶應義塾大学日吉校舎
- 大木 充, 堀 晋也, 長野 督, 西山教行, 他4名(2011), フランス語学習の動機づけに影響をあたえる社会的文脈の比較研究: 日本, 韓国, 台湾, 日本フランス語教育学会, 2011年11月13日, 専修大学
- 境 一三(2011), 複言語・複文化能力育成のための教育システムと教員養成, 大学英語教育学会 (招待講演), 2011年09月01日, 西南学院大学
- 堀 晋也, 西山教行(2012), ヨーロッパに多言語主義は浸透しているか: ユーロバロメーター2001,2005からの考察, 日本フランス語教育学会春季大会, 2012年06月01日, 慶應義塾大学
- 細川英雄(2012), 「言語教育におけるメディアエーションの意味」, 第12回言語文化教育研究会 (招待講演), 2013年02月08日, イタリア・カ・フォスカリ大学
- 細川英雄(2012), 「メディアエーション・相互文化性・そして市民性教育—日本語教育の可能性と課題」, 英国日本語教師会研修セミナー (招待講演), 2013年02月23日, 国際交流基金ロンドン事務所
- 境 一三(2012), 「共生の(ための)言語教育」に向けて、外国語教育の未来を拓く~多様な言語 現場の英知をつないで, 日本外国語教育推進機構 (招待講演), 2013年03月02日, 上智大学
- 酒井志延(2012), 「リメディアルと向きあう」, 第18回日英・英語教育学会研究大会 (招待講演), 2012年09月22日, 麗澤大学
- 長谷川由起子(2012), 韓国語学習者の学習動機づけ調査分析結果報告-2012年に実施した6言語全国調査 (前期) の中間報告, 2013年02月23日, 九州産業大学
- 砂岡和子・古川 裕(2012), 言語接触がもたらす中国語教学環境と資源の変容, 日本中国語学会第62回全国大会, 2012年10月28日, 同志社大学

- 古川 裕(2012), 為甚麼日本人要学漢語、要教漢語?, Beijing Forum (北京論壇), 2012年11月03日, 北京
- 砂岡和子, 塚原信行, 長谷川由起子, 林田理恵, 藤原三枝子(2012)シンポジウム「英語以外の外国語教育についてー2012年度に実施した全国調査の中間報告をもとに」, 語学教育エキスポ 2013, 2013年03月17日, 早稲田大学
- Mitsuru OHKI et Hyeon-Zoo KIM(2012), L'impact de l'environnement d'enseignement et l'apprentissage sur la motivation chez les apprenants japonais et coreens de francais, Congres CAP-FIPE, チェンナイ (インド) 2013年02月15日
- Mitsuru OHKI et Pierre MARTINEZ(2012), Etat des lieux de l'enseignement/apprentissage des langues etrangeres en Coree et au Japon : le cas du francais et de l'anglais, チェンナイ (インド) 2013年02月16日
- 西山教行(2013), グローバル人材から考える「異文化」とのかかわり, 京都外国語大学大学院公開講座 (招待講演) 2013年07月14日 京都外国語大学
- 西山教行(2013), 第2外国語教育はなぜ必要か?, 2013年度弘前大学人文学部「複言語・複文化教育プロジェクト」シンポジウム (招待講演), 弘前大学, 2013年12月12日
- 西山教行(2013), 国民教育としての言語教育ーグローバル人材への疑問, オイコスの会 (招待講演), 2014年02月23日, 京都府庁
- 西山教行(2013), 英語によるコミュニケーションのコストと早期英語教育の意義? 関西フランス語教育研究会, 2014年03月29日, アンスティテュ・フランセ関西 (大阪校)
- 境 一三(2013), 生涯学習としてのドイツ語学習ーCEFRを参考にした制度設計に向けて, 日本独文学会春季研究発表会, 2013年05月26日, 東京外国語大学
- 酒井志延(2013), どの生徒にも必要なグローバル意識・そして自律を促すCAN-DOリスト, 東北6県英語研究大会, 2013年11月07日, 仙台市民会館
- 大木 充・長谷川由起子(2013), La motivation chez les apprenants japonais du francais et du coreen, 日本フランス語教育学会 2013年秋季大会, 2013年10月19日, 韓国・ソウル大学
- 長谷川由起子・斉藤信浩(2013), 大学における韓国語学習者の学習環境・条件と学習動機づけ, 第60回朝鮮語教育研究会, 2013年12月07日, キャンパスプラザ京都
- 長谷川由起子・藤原美枝子(2013), 教師の教え方等と学習者の心理的欲求・動機づけの関係, 言語教育エキスポ 2014, 2014年03月09日, 早稲田大学
- 古川 裕(2013), 從漢語的全球化看在外漢語教学, 華語文教學ー科技與創新”研討會 (招待講演), 2013年09月27日, 国立高雄第一科技大学 (台湾)
- 大木 充(2013), 日本におけるグローバル人材育成と異文化間能力, 多文化関係学会 関西・中部地区研究会 (招待講演), 2013年07月20日, 関西学院大学
- 大木 充(2013), 英語教育と第2外国語教育の改革は可能か, 「複言語・複文化教育プロジェクト」シンポジウム (招待講演), 弘前大学, 2103年12月12日
- 大木 充(2013), 各言語の動機づけの特徴と研究のまとめ, 言語教育エキスポ 2014, 2014年03月09日, 早稲田大学
- 西山教行(2014), 複言語主義に見る言語教育の目的, ヨーロッパ日本研究学会ヨーロッパ日本語教育シンポジウム (招待講演), 2014年08月28日リュブリャナ大学 (スロヴェニア)
- NISHIYAMA Noriyuki(2014), La specificite et les limites de la didactique des langues en francais, 国際フランス語教授連合アラブ世界委員会地域大会, Hotel Laiko Hammamet (チュニジア)
- 西山教行(2014), 『ヨーロッパ言語共通参照

- 枠』は到達目標のツールにすぎないのか, 明治学院大学教養教育センター外国語教育研究会 (招待講演), 2015年02月25日, 明治学院大学
- OHKI Mitsuru(2014), Dans quel objectif et pour quel domaine les etudiants japonais ont-ils besoin d'apprendre le francais ?, 国際フランス語教授連合アラブ世界委員会地域大会, Hotel Laiko Hammamet (チュニジア)
- 大木 充(2014), 京都大学の国際化と外国語教育, 京都大学人間・環境学研究科学際教育研究部国際シンポジウム (招待講演), 2014年11月08日, 京都大学
- 大木 充・西山教行(2014), グローバル人材再考とフランス語教育—複言語・複文化教育の実践, 第28回獨協大学フランス語教授法研究会, 2014年12月07日
- 大木 充(2014), グローバル人材育成と外国語教育政策—批判するだけでなく提案をしよう—日本言語政策学会・特別シンポ (招待講演) 2015年03月22日麗澤大学・東京教育センター
- 長谷川由起子(2014), 外国語教育多様化推進に伴う諸課題～高校生の意識と韓国の第二外国語教育～, 獨協大学創立50周年記念シンポジウム「複言語教育の現在と未来」, 2014年09月27日, 獨協大学
- 長谷川由起子(2014), 第二外国語学習の動機づけと自律学習能力に及ぼす学習者・学習環境要因の影響, 言語教育エキスポ2015, 2015年03月15日, 早稲田大学
- 酒井志延(2014), J-POSTL—a Reflection Tool for Language Teacher Education: Rationale and Structure, 日本独文学会ドイツ語教育部会, 2014年10月25日, 慶應義塾大学
- 安達理恵・酒井志延(2014), グローバル化時代の英語・コミュニケーション教育—大学教員と企業の聞き取り調査から, 中部地区英語教育学会, 2014年06月21日山梨大学
- 境 一三・平高史也・藤原三枝子(2014), 大学におけるドイツ語学習者の動機と動機づけ—6言語を対象とした質問紙調査から, 日本独文学会春季研究発表会, 2014年05月24日, 麗澤大学
- [図書] (計 10件)
- 細川英雄(2011), 言語教育とアイデンティティ—ことばの教育実践の可能性, 春風社, 263p.
- M.V.Lakshmi, Hideo Hosokawa, P.A. George (2011), *Japanese language education: a Bridge between Language & culture*, Northern Book Centre, New Delhi, 342 p.
- 大木 充・西山教行 編 (2011)『マルチ言語宣言: なぜ英語以外の外国語を学ぶのか』京都大学学術出版会, 230 p.
- Veronique Castellotti et NISHIYAMA Noriyuki (2011), *Contextualisations du CECR Le cas de l'Asie du Sud-Est, Recherches et Applications / Le Francais dans le Monde*, n. 50, CLE International, 188 p.
- 長谷川由起子(2012), 『コミュニケーション韓国語 聞いて話そう』, 白帝社
- 大木充, 西山教行, J=F. グラズイアニ(2012)『グラメール・アクティープ — 文法で複言語・複文化 —』(改訂版)朝日出版社, 92
- 古川 裕(2012), 從中日大学的合併政策看人材培養, 『外国人看中国教育』, 137-141
- 細川英雄・鄭京姫(2013), 『私はどのような教育実践をめざすのか—言語教育とアイデンティティ』, 春風社, 263
- 西山教行 共編著 (平畑奈美) (2014)「私事化する教育と言語教育の可能性: グローバル人材に欠けるものは何か」「フランスと日本の自国語普及政策をめぐって—あとがきにかえて」(『「グローバル人材」再考』くろしお出版, 302 p.
- 大木 充(2014), グローバル人材育成政策と

大学人の良識『グローバル人材再考—言語と教育から日本の国際化を考える』, くろしお出版, 302 p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
取得年月日:  
国内外の別:

[その他]

ホームページ等

<http://www.education-langue.com>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西山教行 (京都大学・人間・環境学研究所 (研究院)・教授)  
研究者番号: 30313498

### (2) 研究分担者

大木 充 (京都大学・人間・環境学研究所 (研究院)・名誉教授)

研究者番号: 60129947

境 一三 (慶應義塾大学・経済学部・教授)

研究者番号: 80215582

古川 裕 (大阪大学)

研究者番号: 90219105

久村 研 (田園調布学園大学・子ども未来学部・教授)

研究者番号: 30300007

酒井志延 (千葉商科大学・商経学部・教授)

研究者番号: 30289780

細川 英雄 (早稲田大学・日本語教育研究科・名誉教授)

研究者番号: 80103604

長谷川 由起子 (九州産業大学・国際文化学部・准教授)

研究者番号: 40330790

### (3) 連携研究者

姫田 麻利子 (大東文化大学・外国語学部・教授)

研究者番号: 50318698

林田 理恵 (大阪大学・言語文化研究科 (研究院)・教授)

研究者番号: 70185651

平畑 奈美 (滋賀大学・国際センター・准教授)

研究者番号: 70520906

李 熙卿 (久留米大学・外国語教育研究所・准教授)

研究者番号: 60425147

清田 洋一 (明星大学・教育学部・准教授)

研究者番号: 60513843

平高 文也 (慶應義塾大学・総合政策学部・)

研究者番号: 60156677

砂岡 和子 (早稲田大学・政治経済学術院・教授)

研究者番号: 70257286

グラジアニ, ジャンフランソワ (大阪大学・言語文化研究科・特任准教授)

研究者番号:

長野督 (北海道大学・教育学研究院・教育学院・教授)

研究者番号: 30312408

倉館健一 (慶應義塾大学・総合政策学部・講師)

研究者番号: 70407138

金子百合子 (神戸市外国語大学・外国語学部・准教授)

研究者番号: 80527135

平井素子 (立命館大学・講師)

研究者番号:

斉藤信浩 (九州大学・留学生センター・准教授)

研究者番号: 20600125

金 美仙 (同志社大学・講師)

研究者番号:

山口高領 (早稲田大学・社会科学総合学術院・講師)

研究者番号: 60386555

塚原信行 (京都大学・国際高等教育院・准教授)

研究者番号: 20405153